

平成29年度事業報告(音楽事業)

自 平成29年4月1日
至 平成30年3月31日

公益目的事業(コンサート事業)

1. 「サマーフェスティバル2017」の開催

2013年よりスタートした毎年1人の総合プロデューサーが監修する方式「ザ・プロデューサー・シリーズ」の第4年を開催した。本年は音楽評論家の片山杜秀氏を起用し、全曲日本人作曲家作品による4公演を9月3日(日)、4日(月)、6日(水)、10日(日)に行った。また、細川俊夫氏監修の「サントリーホール国際作曲委嘱シリーズ」はテーマ作曲家にゲオルク・フリードリヒ・ハース氏を迎え7日(木)・11日(月)に、「第27回芥川作曲賞選考演奏会」は2日(土)に、併せて開催した。

2. 「作曲家の個展Ⅱ 2017」の開催

1980年より続けてきた日本人作曲家1人の管弦楽作品をまとめて紹介する個展コンサートを2016年からリニューアルし、2人の作曲家を同時にとりあげ、相違点や共通点を浮き彫りにし、理解を深めるとともに、新たなコラボレーションを期待するシリーズとしてスタートした。本年は、一柳 慧・湯浅譲二の2氏の新作初演を含む公演を10月30日(月)に開催した。

3. 「第46回音楽賞受賞記念コンサート 広上淳一と京都市交響楽団」の開催

第46回(2014年度)サントリー音楽賞受賞者、広上淳一氏と京都市交響楽団の受賞記念公演を9月18日(月・祝)に開催した。

公益目的事業(顕彰事業)

1. 「第48回サントリー音楽賞」「第16回佐治敬三賞」(2016年度)の贈賞

第48回サントリー音楽賞の小菅優氏、第16回佐治敬三賞の「伶楽舎第十三回雅楽演奏会～武満徹『秋庭歌一具』」への贈賞式を6月26日(月)16:00よりホテル・ニューオータニ(東京都千代田区)にて開催し、賞金700万円(サントリー音楽賞)、200万円(佐治敬三賞)を贈呈。佐治敬三賞受賞公演から伶楽舎による記念演奏が披露された。引き続き祝賀パーティーを行った。

2. 「第49回サントリー音楽賞」の選定、贈賞

ア. 選考過程

- (1) 平成30年1月8日(月・祝) ANAインターコンチネンタルホテル東京(東京都港区)に於いて、選考委員6名により第49回「サントリー音楽賞」の「候補者選考会」

を開催した。

(2) その結果、平成 29 年にわが国の洋楽の発展に優れた業績をあげた人々として、候補者を選定した。

(3) 引き続き 2 月 22 日 (木) ホテルニューオータニ東京 (東京都千代田区) に於いて、「受賞者選考会」を開催した。選考委員 5 名による慎重かつ白熱した審議の結果、第 49 回サントリー音楽賞に、「読売日本交響楽団」が選定された。

(4) 3 月 30 日 (金) に開催された理事会において、正式に第 49 回「サントリー音楽賞」は、「読売日本交響楽団」に決定した。

イ. 贈賞理由

読売日本交響楽団は、ゲルト・アルブレヒトを継いでシルヴァン・カンブルランが常任指揮者に就任してからも演奏能力を飛躍的に向上させ、国際的な視点からのレパートリー作りを励行し、世界的に見ても第一級のオーケストラへと成長して、日本のオーケストラ界をリードする存在となった。平成 29 年度も、シモーネ・ヤングやファビオ・ルイーゼ、下野竜也、鈴木秀美、飯守泰次郎などの指揮者や、ギドン・クレーメルといったヴァイオリニストとの共演で、定期演奏会や特別公演で意欲的かつ優れた演奏を聴かせた。また、カンブルランとはメシアン《彼方の閃光》とオペラ大作《アッシジの聖フランシチェスコ》(日本初演)を演奏会形式で 3 回取り上げて破格の成功を収めた。

《アッシジ》は 20 世紀オペラの金字塔かつ巨峰として、編成も規模も巨大かつ長大な作品であるが、読売日本交響楽団は充実した事務局体勢の下、十分な練習時間を積み、万全の準備で初演に臨んで、独唱・合唱とも一体となった陶然とした時空間を作り上げた。メシアンのカトリック的宗教理念を超え、現代作品という敷居も超えて、多くの聴衆にその普遍的な真意を伝えた功績は大きい。

演奏会のみならず、同楽団はリチャード・ジョーンズ演出による二期会の《ばらの騎士》では甘く洒脱な演奏を、新国立歌劇場の《神々の黄昏》では飯守泰次郎指揮下に重厚で逞しい音楽を聴かせ、また日生劇場でのドヴォルザーク《ルサルカ》公演でも、山田和樹の棒で豊かな詩情を表現するなど、オペラの舞台公演においても多彩な活動で平成 29 年の音楽界を席卷した。以上の理由から、ここに到るまでの経緯をも含めて、第 49 回サントリー音楽賞を贈賞する。

ウ. 賞金 700 万円

エ. 贈賞 平成 30 年 7 月 2 日 (月) に佐治敬三賞と併せて開催予定。

(贈賞式) 16 : 00 ~ サントリーホール ブルーローズ

(祝賀会) 17 : 00 ~ ANA インターコンチネンタルホテル東京

3. 「第 17 回佐治敬三賞」の選定、贈賞

ア. 選考経過

(1) 平成 28 年 10 月 1 日 ~ 11 月 30 日および平成 29 年 4 月 1 日 ~ 5 月 31 日の 2 回の募集期間に、平成 29 年 (上期、下期) に実施される音楽公演についての応募を受け付けたと

ころ、56企画（計73公演）についての応募があった。応募公演について選考委員7名が分担し公演の視察を行った。

- (2) 平成30年2月26日（月）ANAインターコンチネンタルホテル東京（東京都港区）に於いて、第17回選考会を開催し、選考委員6名による慎重かつ白熱した審議の結果、第17回「佐治敬三賞」受賞公演に、「三輪眞弘+前田真二郎 モノログ・オペラ『新しい時代』」が選定された。
- (3) 3月30日（金）に開催された理事会において、上記公演を正式に第17回「佐治敬三賞」の受賞公演に決定した。

イ. 贈賞理由・公演概要

<贈賞理由>

世紀のちょうど境目 2000年に初演されて衝撃を与えた音楽劇の、17年ぶりの再演である。オペラといっても既成の諸形式の踏襲は一切ない。コンピューター・プログラムで制御され、フォルマント音響合成（佐近田展康による）を駆使した三輪眞弘の音楽が、前田真二郎の映像と一体になり、メディアアートの総合演劇を作り出す。コンピューター・ネットワークの中に神を見出し、光となってそこを永遠に漂う肉体なき旋律情報となることを願う主人公の少年の自死の物語は、既に初演時に衝撃を与え、来るべき21世紀のニューエイジともいうべき世代の、ほとんど不気味とすら言えるほどに純粹無垢なヴァーチャルの感性の到来を予告していた。しかし主役のソプラノに必要な極めて特異なキャラクターと声（透明で性ニュートラルな非身体性ともいうべきもの）、そして複雑なコンピューター・システムの故に、再演を望む多くの声にもかかわらず、その機会はこれまでなかった。だがこの17年の間に、本作品が描き出した——初演当時は多くの人にとって現実感がなかったであろう——ヴァーチャル世界はいつのまにか世界を包み込む現実そのものとなり、その前で私たちはただ呆然としている。電気テクノロジーが現実化する超（非）現実という逆説。科学技術による合理化の果てに出現する情報ネットワークの魔界。電脳世界へと人間の主体も身体も解消され、「わたし」と「あなた」といった人称性はもはやなく（この音楽劇がモノログ・オペラの形をとっているのは必然である）、従って何の苦悩も対立も生じないこのすべすべした滑らかな調和の不気味。この上演至難な作品を「いま」の時点でもう一度再演した意義は、まさにここにある。初演時にも主役を歌ったさかいいいしうの、まるで遠い宇宙から送られてくる電波メッセージのように微かで透明な声は、17年の間隔をまったく感じさせず、生身の奏者によって演奏されつつ、コンピューター・システムによって制御される音楽は、完璧に映像プロセスとフィットしていた。芸術とは単に美的なものではなく、時代相の最も深いところにある患部の診断にほかならないということ、これだけ鮮烈に思い出させてくれる作品は滅多にない。以上の理由で三輪眞弘/前田真二郎のモノログ・オペラ『新しい時代』に佐治賞を授与する。

<公演概要>

名称：三輪眞弘+前田真二郎 モノログ・オペラ『新しい時代』

日時：2017年12月8日（金）19：00開演 9日（土）14：00開演

16日(土) 16:00 開演

会場：愛知県芸術劇場小ホール(8日、9日)

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール(16日)

曲目：三輪眞弘＋前田眞二郎 モノログ・オペラ『新しい時代』

出演：さかいいいしう

(キーボード) 岩野ちあき、木下端、日笠弓、森岡佳子

(映像オペレーター) 古舘健

(音響オペレーター) ウエヤマトモコ

(ミキシングオペレーター) 大石桂管

作曲・脚本・音楽監督：三輪眞弘

演出・映像：前田眞二郎

主催：愛知県芸術劇場(愛知公演)、

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール(大阪公演)

ウ. 賞金 200万円

エ. 贈賞 平成30年7月2日(月)にサントリー音楽賞と併せて開催予定。

(贈賞式) 16:00～ サントリーホール ブルーローズ

(祝賀会) 17:00～ ANAインターコンチネンタルホテル東京(東京都港区)

4. 第27回「芥川作曲賞」の選考、決定、贈賞

2016年に初演された新進作曲家の管弦楽作品の中で最も清新かつ豊かな将来性を内包する作品を選定。最終選考はサマーフェスティバル2017の一環として、公開の場で行った。

第27回「芥川作曲賞」選考演奏会

9月2日(土) 15:00～ サマーフェスティバルの一環として開催。

第25回受賞記念委嘱の坂東祐大氏作品を初演したのち、候補作品を演奏した。

演奏終了後、3人の選考委員が公開による選考を行って、1曲を選定し、第27回「芥川作曲賞」(50万円)を茂木宏文氏の「不思議な言葉でお話しましょ!」に決定、贈賞した。

選考委員は、酒井健治、西村朗、山内雅弘の3氏。選考会司会は長木誠司氏。

なお、受賞作曲家には新作を委嘱(委嘱料100万円)し、完成後、当財団主催の演奏会で初演する。

公益目的事業(助成事業)

1. 推薦コンサート活動

毎月1回、東西で選考会を開き、日本人作曲作品をとりあげたコンサートを推薦。

推薦されたコンサートは、ホームページ、新聞などで告知し、抽選で読者を招待する。

今年度は23公演、計920名の音楽ファンに日本人作品との出会いを提供。

2. 楽器貸与事業

ア. 学生向け楽器貸与事業

世界的文化遺産である弦楽器名器を保全し次世代に継承するとともに、若手音楽家の育成、クラシック音楽の発展に貢献することを目的に、毎日新聞社主催の全日本学生音楽コンクール バイオリン部門と提携して、「サントリー芸術財団名器特別賞」を設定している。

4年目となる本年度は、横浜みなとみらいホールにて実施された同コンクール、中学校の部（12月3日）、高校の部（12月4日）にて、選定委員が2名の受賞者および推奨ヴァイオリンを選定し、3年間の無償貸与を実施した。

【第4回サントリー名器特別賞受賞者および貸与楽器】

平野友葵（ANGELO TOPPANI 1740年制作）

吉村美智子（JEAN-BAPTISTE VUILLAUME 1855年制作）

イ. 演奏家向け楽器貸与事業

世界を舞台に活躍する若手日本人演奏家に5年間貸与する事業を本年度から開始した。

10月10日発表、希望者を公募し（12月11日〆切）、1月16日サントリーホールで選考会を行ない貸与者を決定した。

【貸与者および貸与楽器】

米元響子 ANTONIO STRADIVARI（1727年製作 ヴァイオリン）

田原綾子 PAOLO ANTONIO TESTORE（1728年製作 ヴィオラ）

岡本侑也 PIETRO GIACOMO ROGERI（1710年製作 チェロ）

3. その他の助成

ア. 活動助成

- | | |
|--------------|-----------------|
| （1）音楽文献目録委員会 | 音楽文献目録出版に対して |
| （2）日本作曲家協議会 | 日本人作曲家の楽譜出版に対して |

イ. 運営助成

- （1）日本作曲家協議会
- （2）日本現代音楽協会
- （3）日本演奏連盟

公益目的事業5（出版事業）

「日本の作曲家の作品」リスト2015～2016年版を制作した。

1981年刊行、隔年発行。日英2ヶ国語で邦人作曲作品情報を紹介。2003～2004年版からPDFファイル電子出版し、財団ウェブサイトから無料ダウンロード閲覧可能である。

以 上